



# にじのはし幼稚園 園だより

平成28年10月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 酒井 正美

そらがたかくひろがるよ うみもきらきらひかっている  
たくさんからだをうごかさう みんながたのしいようちえん  
かまどの会



先日の「かまどの会」へのご参加、ご協力ありがとうございました。

子どもたちは、お家の方と野菜の皮をむいたり野菜を切ったりする経験ができました。そして、朝からお父様方を中心に「かまど」に火をおこし作っていただいたカレーを、みんなで楽しく美味しくいただくことができました。

この、「薪の火でカレーを作る」ということは、子どもたちにとってとても貴重な体験と考えます。日常の生活では、なかなか火が燃えていることを見る機会の少ない子どもたちだと思いますが、目の前で火が燃える様子を見たり、近付くと熱いことが分かったり、薪が燃える匂いをかいだり、煙が出ていることを見たりと、五感を使って実にいろいろなことを感じています。子どもたちは、本物を見る直接体験から多くのことを学んでいます。

レイチェル・カーソンが、著書「センス・オブ・ワンダー」の中で、『知る』ことは、『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちが会える事実の一つ一つが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、様々な情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものに触れたときの感激、思いやり、憐み、讃嘆や愛情などの様々な形の感情がひとたび呼びさまされると、次はその対象についてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識は、しっかりと身に付きます。消化する能力がまだ備わっていない子どもに、事実をうのみにさせるよりも、むしろ子どもが知りたがるような道を切り開いてやるほうがどんなに大切であるかわかりません。」と述べています。

まさに、幼児期の学びの大切さを言い表していると思います。小学校以降の学習は、接続期を経て「自覚的な学び」となりますが、幼児期の教育は「遊びや生活を通した学び」です。小学校の教育を先取りする教育とならないよう、幼児期の発達の特徴に合わせ、遊びや生活が充実するように支え、豊かな学びを保障することが大切です。

指一本でコンロに火が付き（電磁調理器では火も出ませんが）、煮炊きができる生活、インターネットやスマートフォンが当たり前になり、仮想の中で物事が進んでいく世の中に子どもたちは生まれてきています。だからこそ、なおさらに幼児期にふさわしい生活が保障されるよう、自らの身体を実際に動かして五感で感じられるような直接体験を、どのようにして経験させてあげられるのか、知恵をしばっていく必要があると思います。

10月は、「にじっこ運動会」が予定されています。親子で心も体も弾ませて、楽しい一日となることを願っています。保護者のみなさん、特にお父さんパワーに期待をしています。10月もどうぞ、よろしく願いいたします。

